

優秀賞

ひろがれ! そらいろファーム

社会福祉法人幌北学園 下落合そらいろ保育園
(東京都新宿区)



講評

審査委員/公益財団法人児童育成協会 月刊誌「子どもの栄養」編集担当・管理栄養士
岡林一枝

都会特有の環境の中で「子どもたちの学びにつながる体験」を日々考えながら保育を実践されているという書き出しではじまるレポートの中で、いくつかのフレーズに心を掴まれました。

1つ目は、「保育園にいる調理員は一人の保育者である」と意識づけているところ。そうです、保育所の毎日の食事は、空腹を満たすだけでなく、保育の一環として提供されるものです。調理者も保育者としての意識が求められます。

2つ目は、「それぞれの食育活動は点であっても繋げて線にして、さらには面に、年間を通じたねらいや目的、五領域の要素を取り入れて立体的に組み立てる」と書かれており、計画、子どもの育ちに応じた保育として

の食育を基本に考えていることがわかりました。

3つ目は、「食育を通じて「食べ物」だけでなく、食を通じた関わることを子どもたちに伝えたい」と広い視点でとらえていることです。

以上の3点を基本にして、子どもたちのひらめきを丁寧に取りながら活動が展開されています。米づくり、お芋の栽培、すいか……」と展開されますが、失敗しながらも、いつも子どもたち中心で、図鑑や絵本で調べたりする経験は、豊かな広がりにつながりました。レモンの木についたいもむしが、アゲハ蝶に育って羽ばたいていったこと、子どもたちの心にどんなにか素晴らしい体験となったでしょう。